

7/13(土)~8/31(土)

サマーフェア開催中

展示会のご案内

◇展示資料館 1F (7/27~9/4)

ボタニカルアート作品展

◇展示温室 (8/24~9/1)

変化朝顔展

ラッカセイ (マメ科)

中南米原産の植物で、日本では江戸時代に中国から渡来したことから南京豆^{なんぎんまめ}とも呼ばれています。夏に黄色の花を咲かせた後は、子房柄という部分が地面の中まで伸び、土の中で子房が膨らんで豆ができます。花が落ちて土の中で実ができるように見えることから落花生と名づけられました。

トゲオニソテツ (ザミア科)

南アフリカ原産。雌雄異株。手前の雌株にはラグビーボール状の鮮やかな朱色の雌球果が付いています。奥の雄株には雄球果が付いています。

変化朝顔

江戸時代から続く古典園芸で、葉や花の多彩な変化を楽しめます。約200鉢の植物と朝顔に関する作品を展示しています。

サガリバナ

(サガリバナ科)

花は夜開性で、翌朝には落花します。自生する西表島では、早朝に水面に落ちた花を見るツアーも開催しています。夜間開園の目玉植物。

ヒマワリ (キク科)

カスケードと花の迷路に矮性(株丈 20 cm~1m)の品種を約1200株植えています。花は小型ですが集合写真にお勧めです。

マンデビラ (キョウチクトウ科)

中南米原産のつる性植物で、花を次々に咲かせます。緑のカーテンにも用いられます。

ツクミソウ (アカバナ科)

メキシコ原産の植物で江戸時代にマツヨイグサなどと一緒に観賞用として導入されました。

夕方から白い花を咲かせ、朝にはピンク色になり、しぼむ一夜花です。

適応性が弱く、野生では見られないため、野生化してよく見られるオオマツヨイグサ等がツクミソウと勘違いされていることがよくあります。

オミナエシ

(オミナエシ科)

秋の七草の一つで、小さな黄色い花を沢山咲かせます。万葉集や源氏物語にも出てくる有名な植物です。

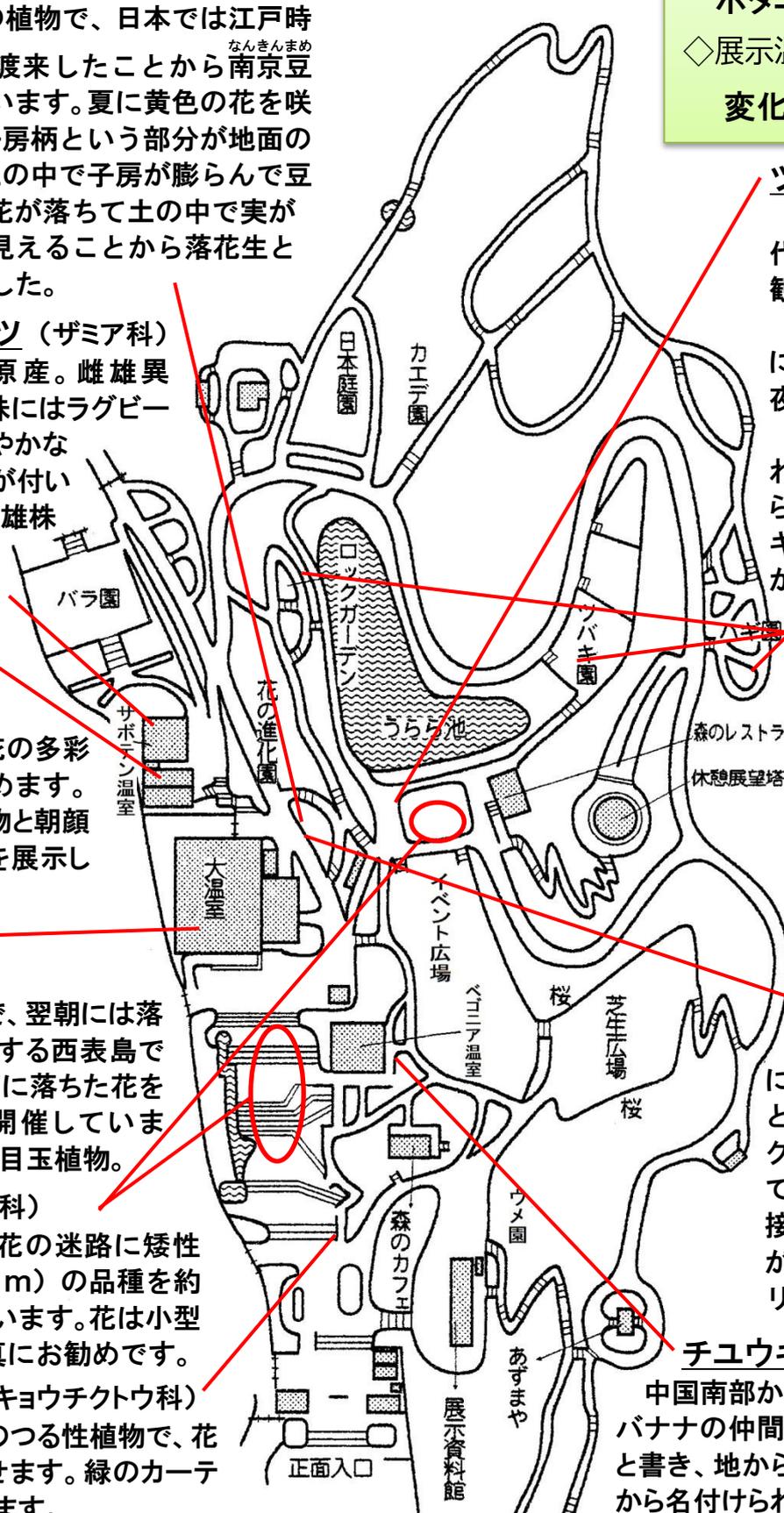
漢名は「敗醬」と書き、乾燥させると根が醤油の腐敗したような臭いをさせることからこの名が付けられました。

オジギソウ (マメ科)

南アメリカ原産で、世界中に帰化しています。葉を触ると閉じることで有名で、ピンク色の毬状の小さな花をつけています。葉が閉じる原因は接触や振動などがありますが、夜にも閉じるので、「ネムリグサ」の異名もあります。

チュウキンレン (バショウ科)

中国南部からインドシナ半島に自生するバナナの仲間です。中国では「地湧金蓮」と書き、地から湧いた金の蓮に見えることから名付けられました。



✿毎週土・日曜日・祝日 午後1時半~3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内します✿

✿毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時~は、職員による植物うんちくガイドを実施します✿